



日本女医学会誌

復刊第 188 号
2006 年 10 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

日本女医学会が取り組む 絶好の機会

副会長 鹿田儀子

猛暑の夏が過ぎ、秋らしい空になりました。皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のことと存じます。新執行部になって早くも5ヶ月が過ぎ、多くの課題を滞りなく進めるべく努力しております。新会長の所信表明にありましたように、今私たちが女医として診療に、そして、家庭人として先輩たちに比べ苦勞が少なく過ごすことが出来ますのは多くの先達のお陰と感謝いたしております。女医が多くなった今、ますます日本女医学会の存在が意義あるものと感じています。男性医師が主に舵を取っている日本医師会では難しいであろう女医の環境問題は今こそ日本女医学会が取り組む絶好の機会であり、このことを全国の女医に理解してもらおうべく活動していかなければならないと痛感しております。

多忙な日々を送っています私たちは、目の前の問題解決に追われがちですが、多くを経験した先達が有能な後輩たちのために能力を発揮しやすい環境を整えることができればと思います。女医の皆さんが

理解し賛同し女医学会の活動がさらに広がれば、種々の問題解決につながるでしょう。

このためには様々な形で啓蒙しなければなりません。新執行部も努力を惜しまない決意です。女医学会の存在を知らない女医が思いのほか多いのが現実です。ブロック別懇談会などを各地で開催して女医学会の存在意義を広めたいと計画しています。このためには全国の会員の皆様のご協力なくしては不可能です。社会に貢献し、仕事に、また家庭人としても幸せな日々を送ることが出来る良い環境を作るべく意義ある仕事をさせて頂きたいと考えています。新執行部も多くの皆様からご意見をいただき、お知恵をお借りしながら、全力を尽くしより良い女医学会にして幅広い活動ができたと思います。

今まで以上にご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

第 25 回学術研究助成報告 鎖肛ブタの遺伝子解析

筑波大学大学院人間総合科学研究科
病態制御医学小児外科 平井みさ子

鎖肛は出生 5,000 人に 1 人の発生という、新生児外科疾患では最も頻度の高い先天性疾患である。その病型は複雑で、遺伝学的発生の病因はいまだ解

日本女医学会誌 (第188号) もくじ

巻頭言	鹿田儀子 (1)
第 25 日本女医学会学術研究助成報告	平井みさ子 (1)
国際女医学会ニュースリリース	内湯安子 (2)
国際女医学会議のお知らせ	(3)
各委員会報告	
子育て支援委員会	山崎トヨ (4)
長寿社会福祉委員会	大坪公子 (4)
支部だより (神奈川支部)	大竹輝子 (5)
日本医師会 第 2 回男女共同参画フォーラム	山本蒔子 (6)
第 52 回定時総会のご案内	(6)
女性医療ネットワーク カナダ視察レポート	吉田穂波 (7)

留学体験記	
〈オーストラリア メルボルン大学〉	野原理子 (9)
私の大学「信州大学」	長谷川京子 (9)
私の好きな食べ物やさん③	二村芙美江 (10)
〈書評〉	
免疫力でがん闘う	橋本葉子 (11)
北の命を抱きしめて	濱田啓子 (11)
理事会議事録 (6 月、7 月)	(13)
会員動静/各賞・助成について	(16)
編集後記	広報部 (16)

日本女医学会のホームページが変わりました！ さらに充実して大变身 <http://www.jmwa.or.jp>

明されていない。当科では自然発症の鎖肛ブタに造肛術を施行して救命し、鎖肛が高頻度で発症する家系を確立した。これに別の家系のブタを交配し、得られたF1を鎖肛ブタに戻し交配することでF2を得、これらについて連鎖解析を行い鎖肛と最も関連が深い遺伝子はブタ15番染色体上にあることを報告した。本研究は、この系においてさらに分子生物学的検索をすすめ、最終的にはヒトの鎖肛関連遺伝子の解明につなげることが大きな目的である。今回、10年前から研究交流を継続している、ブタの全ゲノム解明を進めているスウェーデン王国ウプサラ大学バイオメディカルセンターのLeif Anderson教授の研究室に共同研究者である工藤寿美助手が留学する機会を得、研究助成をいただいた。

ブタ15番染色体上に認められた鎖肛関連遺伝子の存在が示唆された部位は、ヒトブタ比較遺伝子マップによりヒト2番染色体上のGLI2遺伝子とあたることが明らかになった。さらに上記F2の鎖肛ブタDNAサンプルを用いてGLI2遺伝子を中心とした多因子遺伝の解析にも着手した。GLI2はhindgutの発生においてSonic Hedgehogの機能に重要な役割をもっており、まさに鎖肛の形態発生の中心的役割を果たす遺伝子と言えるが、その遺伝形式は高血圧や糖尿病と同様に多因子遺伝であり解明は容易ではない。まず、GLI2の一部を増幅しSNP解析の予試験を開始した。しかし、いまだブタのGLI2の塩基配列が不明であるため、このブタ遺伝子のPCRには様々な技術的工夫や知識が必要で、この点においても、Leif Anderson教授の下で工藤助手がpyrosequencingやinteraction analysisの実際など最先端の知識・技術を学ばせていただいたことは、本研究に大きな意義を持つ。今後、GLI2遺伝子の全塩基配列の決定とともに、包括的な病因解明へと進めていきたい。

鎖肛のみならず種々の先天性疾患における多因子遺伝と病因の解明は、治療にも御家族が安心して次子を望める環境を整えるためにも、医学研究の重要課題である。日本女医会より賜った研究助成に対し、華々しい報告をさせていただくには更なる努力と年月を要するが、この1年の成果を足がかりに今後とも努力を重ねていきたい。

最後に、本研究に対し日本女医会より御支援をいただきましたこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



国際女医会 (MWIA) 本部からいろいろニュースがメールで送られてきますが、このコーナーでは、医学的なことを取り上げてお知らせします。

ナショナルコーディネーター 内潟安子

HIV/AIDS 戦争に勝つための新しいアプローチ

(2006年7月10日 22:00)

2006年6月28日から7月3日までザンビア、ルサカ市で開催されたザンビア女医会主催の第4回地域会議において、近東ならびにアドリア海近隣のMWIAメンバーが集合した。この会議のメインテーマは女医と学位について、サブテーマとして学位取得におけるHIV/AIDSのインパクトであった。

HIV/AIDSの世界的なまん延は押さえようもなく強烈であり、女性に対してもその影響はいろいろな面で増加してきている。

女性に対しては以下の3つのことを考えていかなければならない。第1に、新しく女性が感染することである。サハラ砂漠より緯度が低い地域のアフリカにおいてほとんどの感染はヘテロセクシャルであり、下層レベルの女性は男性に安全なセックスを要求できない状況である。第2に、HIV/AIDS撲滅には訓練された健康管理能力を必要とする。それには多くは女性の力を必要とする。第3に、HIV/AIDS撲滅には家庭を基盤にしたケアが必要であり、これは言うまでもなく女性の双肩にかかっている。場合によっては女性自身のキャリアまでも損なうことにもなり兼ねない。

これまでHIV/AIDSに対しては主に医学的なアプローチがなされてきた。HIV/AIDS自体が大変な疾患であるために、そのアプローチはすべて後手にまわってきた感がある。MWIAはHIV/AIDS撲滅のためにもっと人権を大事にすべきであると言いたい。

サハラより緯度の低い地域には世界のHIV/AIDS感染者の64%が住んでおり、その57%は女性である。女性がしっかりしないとさらにHIV/AIDSがまん延することになる。

MWIAは女性に対する暴力がヘテロセクシャル感染を増加させることをよく理解している。MWIAは女性を勇気づけて男女平等のもとにHIV/AIDSのまん延を抑制させたい。

社会文化的変化によって国が方針を変更しなければ

ばならない岐路に立つときは、女性は一番先頭に立つべきであると考えます。もちろん MWIA はこれまで先頭に立ってきたし、今 HIV/AIDS のまん延よりも重要なものはないと断言したい。

以下のニュースが 9/12 にメールで送られてきました。9/30 の締め切りには間に合いませんが、このような WHO ニュースが国際女医会本部からきていることをお知らせいたします。

—WHO 肥満撲滅賞 締め切り 9/30/2006—

肥満撲滅に対する WHO カンファランス (WHO 欧州本部主催) が 2006 年 11 月 15 日～17 日まで、トルコのイスタンブールで開催されます。カンファランスの目的は、国際的に、また国内的に啓蒙して高いレベルの政治的コミットメントを求めるために、肥満を公衆衛生学的あるいは政治的な面から高く捉えて討議することにあります。

カンファランス事務局は各地で積極的に行動している肥満撲滅の動きに対して、賞を授けることを企画しています。受賞者は、このカンファランスで表彰され、その活動の一端を発表することになります。

肥満撲滅のための活動は、健康、農業、レジャー、スポーツ、地域活性化、労働、教育など幅広い分野にわたってのものと考えてください。その活動の場も、学校、職場、地域と幅広いものであってけっこうです。

2007 ガーナ国際女医会議のお知らせ

CONGRESS VENUE

July 31~August 4, 2007 at the La Palm Beach Hotel, Accra, Ghana

Theme "Women in the World of Medicine"
 Venue La Palm Beach Hotel, Accra, Ghana
 P.O. Box OS 3000
 Accra, Ghana
 Phone: +233 (0)-771700 or +233 (0)-771641
 Reservations: +233 (0)-771666
 Fax: +233 (0)-771717
 E-mail: enquiries@la-palm.com
 Website: <http://www.gbghghana.com>

Registration Registration can only be done online, but payment can be effected by bank transfer. Please access through the

congress website
www.mwiainghana.com

Please note that members of national associations who are in arrears will pay the nonmember rate for the International Congress in Ghana.

The Ghana organizing committee will be informed of the national associations that are in arrears, so that the correct registration fee can be charged.

Payment From the Congress website we have learned that credit cards are accepted by most large businesses and hotels. Traveller cheques can be used but are not advised. Some cash should be carried, preferably US Dollars or British Pounds.

Visa If pre-registered, the Ghana visa will be provided for US \$20 per person at the airport, but if not pre-registered, visa must be purchased in your own country prior to entry into Ghana.

Vaccination All participants are advised to check in due time if they need vaccinations to enter Ghana (e.g. Yellow Fever, Malaria)

Accommodation A list of hotels including reservation form is available from the congress website. Please go to <http://www.mwiainghana.com/accomodation.htm>

Local Organizing Committee (LOC):
 Society of Ghana Women Medical and Dental Practitioners

P.O. Box KB 263
 Korle BU, Accra, Ghana
 Phone: +233-28 503 7385
 Fax: +233-21 239684

E-mail: info@mwiainghana.com (General information),
afuahesse@mwiainghana.com (Chairperson LOC)
pokusarpong@mwiainghana.com (Secretary LOC)

Congress Website <http://www.mwiainghana.com>

CANDIDATES FOR THE ELECTION OF MWIA OFFICERS FOR THE TERM 2007 ~2010

PRESIDENT DR. ATSUKO HESHIKI (JAPAN)

IMMEDIATE PAST PRESIDENT

DR. GABRIELLE CASPER (AUSTRALIA)

PRESIDENT

ELECT DR. AFUA HESSE (GHANA)

DR. KYUNG AH PARK (KOREA)

SECRETARY-GENERAL

DR. SHELLEY ROSS (CANADA)

TREASURER

DR. GAIL BECK (CANADA)

REGIONAL VICE-PRESIDENTS:

NORTHERN EUROPE

DR. OELOF SIGURDARDOTTIR (ICELAND)

CENTRAL EUROPE

DR. WALTRAUD DIEKHAUS (GERMANY)

SOUTHERN EUROPE

DR. GWENAELLE VIDAL-TRECAN (FRANCE)

DR. CLAUDIA DI NICOLA (ITALY)

NORTH AMERICA

DR. SHIRLEY HOVAN (CANADA)

LATIN AMERICA

DR. RUTH GUILLÈ DE MALDONADO
(BOLIVIA)

NEAR EAST AND AFRICA

DR. FRIDA KAZALA KAZEMBE (ZAMBIA)

CENTRAL ASIA

DR. MANJU MATALIYA (INDIA)

WESTERN PACIFIC

DR. TSUEY-RU CHIANG (TAIWAN)

VOTING AND DUES

The number of votes will be the average of numbers of paid up members for the preceding three years. For this congress only, the number of paid up members will be calculated on dues collected by 0900 hours on day one of the congress. In subsequent years, the number of members per year will be calculated on June 30th, the end of MWIA's fiscal year.

In order to avoid difficulties and hectic during the congress, it would be very much appreciated if all outstanding dues could be paid until 30 June 2007. Only if local reasons made it impossible for you to pay your dues before the congress takes place can we accept that you pay your dues at the congress venue.

子育て支援委員会より

21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業

委員 山崎トヨ

子育て支援委員会は、公益法人の立場にもある日本女医会において、平成18年度の大きな事業の一つとして出発しました。石原委員長を中心に10名の委員が心一つにして活動しています。

委員会は今までに4回、月一度の割合で理事会終了後に開き、案を練ったり、経過報告をしたり段階です。9月中旬現在、4,000人の保護者に救急医療に関するアンケートを送り、約3,000人から回収されています。今後送付部数は増えますので、回収が大変ですが、楽しみです。

身近な園医による「ミニ講演会」は大変好評で、現在までに東京、神奈川・埼玉・栃木地区で合計15回行いました。保護者や保育士が対象ですが、園内で20人前後の方と近しくお話しができたり、90人もの会場でもお座りで熱心に聞いてくれます。園医の女性同志（男性は5～10%）という気安さも良いようです。内容は「一次救急、二次救急、三次救急について、子どもの危険な症状、救急受診の決定的な症候、救急医療のかかり方、かかりつけ医の大切さ」等を子育てを絡めて話しています。

さらに、二次救急指定病院小児科医による「講演会」を東京で1回開催しました。

参加者は170名でしたが、小児救急医療全般の現状、特に二次・三次の救急医療現場の精神的、肉体的、経済的に厳しい実状・問題点を訴え、その解決のためにも一次救急体制の確立と患者教育の重要性を強調しました。そして、社会として救急病院のかかり方についての広報活動の必要性を述べました。

今後アンケート結果の分析検討、小冊子の作成を考えています。会員の皆様のご協力が大変ありがたく、頑張れる素になります。来年度も継続する事業ですので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

長寿社会福祉委員会より

「たんの吸引」を安全に行うための講習会

委員長 大坪公子

平成18年9月30日（土）、ホスピア三軒茶屋において、午後1時30分より5時30分まで、第一回



の講習会を開催しましたので報告します。

受講者は48名で、在宅介護をしている家の家族、ヘルパーさん、医療関係者、その他の人たちです。プログラムは下記のようにビデオを使用して、映像による講習を約20分行いました。「とても分かりやすいビデオで良く出来ている」との声が聞かれました。

次に講義形式で、病気・病態に関すること、吸引の方法、解剖学的事実、手技に関すること、法的解釈、介護、養護施設の課題、在宅介護の現状とたんの吸引、感染防止のための手洗いについて、それぞれの講師の先生が行いました。

実技は6人ごとのグループにわかれ、速乾性消毒液を使い手洗いの実技練習を行いました。吸引の実技は2人1組となり、実際に吸引器を使って口からの吸引と鼻からの吸引をそれぞれ体験しました。初めての吸引の体験で、とてもよく分かった、という人が多くおられました。吸引の人形モデルを直接手

で触り、鼻や口や咽頭、喉頭の間隔をじっくりと見て勉強しました。

各グループは病院に移動して、病院で実際に看護師さんが患者さんに行う口や鼻や気管切開部位からのたんの吸引を見学しました。

講義の内容は小冊子にして全員に配りました。

●プログラム

- | | | |
|-------------------------------|-----------------------|-------|
| 1) ご挨拶 | 日本女医会会長 | 小田泰子 |
| 2) はじめに | 日本女医会理事 | 大坪公子 |
| 3) 映像による講習(ビデオ使用) | | |
| 4) 吸引の必要な病気・病態 | 都立神経病院脳神経内科 | 川田明広 |
| 5) たんの吸引の手技、解剖学的事実 | 日本女医会副会長 | 角田由美子 |
| 6) 吸引行為を行うことの法的解釈 | 東京女子医科大学名誉教授/東京福祉大学教授 | 澤口彰子 |
| 7) たんの吸引に関する介護、介護老人福祉施設の現状と課題 | 特別養護老人ホームプレーゲ本塾施設長 | 湯川智美 |
| 8) 在宅介護の現状とたんの吸引 | 日本介護福祉社会副会長 | 柴田範子 |
| 9) 感染防止のための手洗い | 日本女医会理事 | 藤川眞理子 |
| 10) まとめ | 日本女医会監事 | 松井ひろみ |

盛り沢山の講習内容でしたが、受講された方々にはとても喜んで頂けました。

■ 支 部 だ よ り ■ 来年の日本女医会総会に向けて

神奈川支部 大竹輝子

毎年暑い、異常気象だのとぼやきながら、その暑いさなか7月に神奈川支部は総会をいたしております。それといいますのも、春秋の良い季節には学会や各種イベントとも重なり合いますのでついそのようになりました。

今年も7月第2日曜に、横浜駅前の崎陽軒を会場に行いました。総会後の学術講演には横浜市大、小児科の横田俊平教授をお願いしまして「子どものリウマチ～膠原病と最近の進歩」というお話しを分かりやすく、しかも目新しいことばかり聞かせて頂きました。リウマチ性疾患は今まで暗黒大陸のようであったのに、今では新薬で治る時代になった、ステロイド治療はもうないとのこと、その後各論として症例にそった細かいお話しもすべて目から

鱗と言った具合でお聞きしました。

支部総会の参加者がいつも二十数名で、最近はお若い先生方にもPRして極力出て頂くようにしておりますが、良い講演をお聞きするたび、人数が少なくなくて惜しいことだと思っております。

今年は支部を設立してから40周年にもなりますし、記念誌としての『支部だより』を今年一杯に発行するつもりでおります。そして来年は日本女医会の総会を5月に神奈川県でお引き受けしましたので、今着々と準備に取りかかっているところがございます。

全国の日本女医会の皆様、今神奈川県はここ10年で非常に改革が進んでおります。横浜から港、中華街へ向けての路線、みなとみらい地区と銘打っての埋立地の整備、目新しいことばかりでございます。来年5月の日本女医会総会にはいろいろ楽しいイベントも企画しておりますので、是非ともより多くの皆様にお越しいただきたいと願っております。

日本医師会 第2回男女共同参画フォーラム

理事 山本 蒔子

日本医師会主催による第2回男女共同参画フォーラムが、平成18年7月29日(土)に大阪府医師会館にて開催された。日本女医会からは、小田泰子会長をはじめ山崎副会長、村田理事、古賀理事、吉馴理事、川田監事および渉外部の山本が出席した。以下に、プログラムに添って報告する。

〈報告〉「各都道府県での女性医師に関わる問題についての取り組み状況及び日医各委員会での女性委員登用状況について」

今年度新たに作られた男女共同参画委員会の委員である小笠原真澄氏(秋田県医師会理事)の司会で開始された。日本医師会長の唐澤祥人氏、大阪府医師会長の酒井國男氏の挨拶に続き、男女共同参画委員会の委員長、保坂シゲリ氏が以下のように報告した。

女性医師に関する取り組みは、日本医師会女性会員懇談会が調査し、本年2月に報告したものである。12都道府県医師会が既に取り組み、委員会や女性部会を設置している。さらに11医師会が予定しており、6医師会は勤務医部会で取り組んでいる状況であるが、ほとんどがまだ問題を探っている状態である。

日医各委員会(45)で、1人でも女性医師が入っているのは19委員会(44%)に過ぎない。中でも学校保健、産業保健、医療対策には1人の女性委員もいない。今後女性医師の登用を促進すべきである。

〈パネルディスカッション〉「女性医師バンクに関する諸問題」

座長は男女共同参画委員会副委員長の中川やよい氏が担当し、6名のパネリストが以下の講演を行った。

1. 日本医師会の取り組み状況
日本医師会担当常任理事 羽生田俊
2. 千葉県医師会女性医師部会での取り組み
千葉県医師会理事 秋葉則子
指定発言 ドクターバンク 徳島県医師会における取り組み
徳島県医師会常任理事 櫻井えつ
3. 日本小児科学会での取り組み
大阪大学大学院医学系研究科小児科助手 恵谷ゆり
4. 東京女子医大での女性医師再研修の試み
東京女子医科大学第一生理学教授 川上順子
5. 国立病院機構近畿ブロックでの取り組み
国立病院機構大阪医療センター総括診療部長 山崎麻美

羽生田俊氏は、今年度中に日医が立ち上げる予定の女性医師バンクについて簡単に触れたが、具体的な事柄は特になかった。また、日医が女性医師の委員への登用を抑制しているわけではないが、各ブロックからの推薦が少ない状況を説明した。少ないならば、女性医師の推薦を多くするように各医師会に働きかけるべきと思われた。

秋葉則子氏と櫻井えつ氏は、それぞれの医師会に女性部会が作られ、平成18年および平成6年にドクターバンクを立ち上げたことを発表した。しかし、実績は、余り上がっておらず、これからの感じであった。

恵谷ゆり氏は、日本小児科学会の取り組みを話し

社団法人日本女医会 第52回定時総会のご案内

開催日 平成19年5月19日(土曜日)

会場 神奈川県横浜市 バンパシフィックホテル(宿泊、懇親会)
パシフィコ横浜国際会議場(評議員会、総会)
*ホテルと会議場は歩いて2~3分です。
*交通 新横浜から市営地下鉄15分「桜木町」下車
桜木町駅からタクシー基本料金
<東京方面より>
東急東横線「みなとみらい駅」下車(渋谷より34分)
みなとみらい駅から徒歩1分

日程

- 5月18日(金) 午後5時 受付
午後6時~前夜祭およびアトラクション(室内楽等予定)
- 5月19日(土) 午前10時~評議員会
午後1時~2時30分 総会
午後3時~講演会
演者:元長野県知事 田中康夫様
午後6時~懇親会およびアトラクション(於:ホテル)
- 5月20日(日) 観光
1. 市内観光(湾内クルーズを含む)
2. ゴルフ(場所未定)

た。小児科医の現状を調査し、常勤の勤務医の場合には時間外救急、当直勤務が多く、家庭との両立は困難、出産を契機にパート医師になる割合が多いとの現状から、医師も労働条件をきちんと整えるべきと訴えた。小児科学会が医師の労働条件について主張していることに、注目した。また、「大阪小児科医バンク」について説明をした。

川上順子氏は、女性医師の再教育システムについて話した。卒業後3年頃から常勤医師が減少していく傾向を示し、臨床現場へ復帰するための教育を行い、常勤女性医師の割合を向上させることが期待されると話した。

山崎麻美氏は、「ママさん医師登録システム」を病院内に3月立ち上げたことを話した。子育ての経験を生かせる科として小児科、産科、小児外科、小児整形、小児脳神経外科を薦め、各科でパートで働ける細かい内容を挙げて広報をしていた。ママさん医師が増えると医療が変わるとの視点が優れていた。

質問の時間が少なかったが、山本は宮城県女医会として関わった事例として、東北大学病院の病院長に子育て中の女性医師グループが提出した要望書について発言した。要望がかなえられたのは、①産休中の医員ポストの確保 ②子育て中の女性医師に駐車場を優先して与える ③保育所入所を申請する際に、医員でも常勤勤務である勤務証明の発行であった。また、現在の大学のシステムでは、女性医師は診療や研究はきちんとできても、子育て中は、医局の義務（当直、地方病院への出張）が果たせず、したがってポジションを得られない。女性医師を評価してもらえるような、現在のものとは違うアカデミックポジションを作りたいとの要望があることも紹介した。

〈基調講演〉「次世代育成支援と男女共同参画」

座長は男女共同参画委員会副委員長の池田俊彦氏が務め、当時内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画）の猪口邦子氏が講演した。

1999年に施行された男女共同参画基本法を解説し、日本の現状はGEM（ジェンダーエンパワーメント指数）が80カ国中43位と低いことを示し、日本は、意思決定に参加できる女性が、特に少ないことがこの結果になっていると説明した。

医療分野における男女共同参画の現状として、医師国家試験に占める女性割合は33.7%、女性医師の割合は16.5%である。日本医師会における女性会員の割合は13.2%であるのに対し、役員割合は0%で

あり、女性会員は役員職に就きにくい状況であることを示した。保坂氏の報告と共に、日医が今後取り組むべき点と思われた。

2005年に改正された第2次男女共同参画基本計画について解説した。なかでも女性研究者の採用、登用、勤務環境の整備を進め、数値目標を自然科学全体として25%（保健系では30%）とし、各研究組織ごとに女性研究者の数値目標を設定し、達成のための努力や達成状況の公開を期待する。モデルとなる大学への支援を行うことや子育てへの支援を手厚くすることを示した。この施策が確実に実行されることを大いに期待したい。

フォーラムの終了後、日本女医会大阪支部の先生により懇親会が準備された。日本女医会会長の小田泰子先生および大阪府支部、愛知支部、宮城支部の各会員が出席し、懇親を深めた。

女性医療ネットワーク カナダ視察旅行レポート

ブリティッシュ・コロンビア州の女性医療から学んだこと

栃木支部 吉田穂波

女性医療ネットワークは女性医療にたずさわる様々な職種の専門家が集まり、活動している。年に3度セミナーを開催しているが、今回は7月2日から8日までカナダでの医療現場視察を行った。のべ15時間にわたる視察で得たエッセンスをここにご報告したいと思う。

私たちが滞在したのは主にブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーであった。カナダでは、健康が国民と政府の最重要課題であるという意識が高く、特にブリティッシュ・コロンビア州では、予算の4割を保健・医療にあて、米国に並ぶ医療システムを構築していた。「寿命の差は保険制度の質ではなく、収入・財政・交通手段によって決まる。そして財政支援と交通手段サポートが何よりも長寿に貢献する」というスポークスマンの言葉が印象的だった。市民は、一定の健康保険料を支払えば（月5,000円程度）、いつでも無料で医療機関を受診することができる。これはMSP（Medical Services Plan）とよばれ、市民の約99%をカバーしている。妊娠・出産や在宅介護もこの原則が適用される。

3日間 Women's Hospitalの中を見学したが、州と病院で運営費を折半し、医療費をできるだけ抑えるよう長期入院患者は地域の在宅支援システムに回



Women's Hospital
での見学

し、地域のドクターと連携しているという。カナダではホームメーカーという看護・介護専門職を養成するシステムがあり、看護師の仕事とはっきり役割分担されている。また、ボランティアの力を利用していること、イギリスやオーストラリアで訓練を積んだ上級看護師・助産師たちがドクターよりも医療の中心を担っているということも知った。これは人件費削減にもつながっている。

女性医療政策が充実しているカナダであるが、1990年代に、20%以上の女性政治家を抱える新政府が誕生し、強い女性リーダーに率いられて女性医療を後押ししていったという。女性は家庭や地域のCoreであり、サポーターであり、養い手であり、

女性の健康は家族の、そして国民全体の健康につながるということを継続して、結束して声高に伝えていくことが大切なのだという政府の姿勢に大いに共感した。

現地で活躍している日本人女性精神科医の原田先生とお話する機会があり、そのご苦労などを教えていただいた。文化のはざままで心に悩みをためこんでしまう日本人。表面に出さない感情をくみとってもらえず、溝が深まるばかりで心の病におちいってしまう人々を治療するのは、やはり日本的なキャラクターを知っている女性医師ならではのである。

このように、今回は実際に現地を歩いて学ぶことの多い有意義な視察旅行であった。メンバー皆が現在の活動に還元していくことができると思う。

妊娠7ヶ月の妊婦として1歳半の娘を連れて参加した私に、カナダの人々はとても優しく、セミナーツアーメンバーの方々も家族のようにいたわって下さり、私にとって大きな意義のある7日間だった。今後も女性として、医師として、母として、患者として、様々な視点から女性医療についての知識を吸収し、情報発信をしていきたいと思う。



Pletaal® tablets 50mg・100mg

指定医薬品

日本薬局方 シロスタゾール錠

プレタール®錠50mg

プレタール®錠100mg

抗血小板剤

薬価基準収載

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先
大塚製薬株式会社
信頼性保証本部 医薬情報センター
〒101-8535 東京都千代田区神田司町2-2
大塚製薬神田第2ビル

（'06.06作成）

留学体験記

オーストラリア メルボルン大学

東女医学内支部 野原理子

メルボルンに到着して今日でちょうど1ヶ月が過ぎました。長かったような短かったような不思議な感覚です。

私が今回の留学を思い立ったのは約1年半前のことでした。大学を卒業して十数年が過ぎ、毎日忙しく働いていたある日（学会の前日）、虫垂炎から腹膜炎をおこし緊急手術となりました。皮肉なことに手術の夜、就職してから初めてぐっすり眠った気がしました。実際その日まで毎日の生活に追われ、睡眠も十分にとれず、物事をじっくり考える時間などありませんでした。入院中、「人生80年、この辺で少し自分と家族のためにじっくりと時間を使ってもいいのかな？」と考えました。そして7月末日メルボルンに到着したのです。私の留学の最大の目的は「家族で海外での生活を体験し、異文化を楽しむ」ことでした。留学中に自分のスキルアップをすることや周りの人のために何かをすることまでは無理かな？というくらいの気持ちでした。

ところが留学することを友人や知人に知らせると皆とても暖かな励ましをくれたのです。私の少々逃避行動とも取れる留学であるにもかかわらず、皆が

とても協力してくれました。職場では仕事の引継ぎを快く引き受けていただき、私生活の面でも、友人たちが荷造りやらなにやら細部にわたり気遣って手伝ってくれました。電話やメールでもたくさんの心のこもった励ましをもらいました。出発の日、空港まで見送りに来てくれた友人もいました。ありがたくて胸がいっぱいになりました。

さてメルボルンに到着してからはすべてがゼロからのスタート。家を借り、家具をそろえ、子どもの保育園を探す…。覚悟してきたとはいえ、ただの外国人留学生で言葉もうまく話せない私たちにとってはなかなか大変なことでした。しかしこちらでもメルボルン在住の知人がシーツや食器、調理器具など生活に必要なこまごまとしたものをいろいろと貸してくださったり、メルボルン大学で「女性の健康学」の講義を一緒に受講した日本の学生（第一線で活躍中の看護師や医師）の皆さんが資料や文房具、ノートなどを残して行ってくださったり……。

この留学は「家族で海外での暮らしを体験する」ことが目的でしたが、その前に周囲の皆さんからの暖かな励ましやご協力をいただいて、本当にかげがえのないありがたい毎日を送らせていただいています。

今の私はまわりの皆さんのお世話になるばかりで何もできませんが、いつかきっと私も誰かに心のこもった暖かな手助けができるようになりたいと心から思っています。

私の大学……信州大学

長野支部 長谷川京子



信州大学は長野県の長野市、上田市、松本市、南箕輪村に点在する合計7つの広域形キャンパスを持つ総合大学です。医学部は人文学部、経済学部、理学部とともに松本市の旭キャンパスにあり、自然に囲まれた美しい城下町松本で6年間を過ごします。医学部は昭和19年に松本医学専門学校として始まり、昭和26年信州大学医学部医学科となり、平成14年に医療技術短大を4年制の保健学科（看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学）として改組し、優れた医療人育成を目指して常に前進を続けています。

さて信州大学医学部というと、皆さんがよくご存知なのは肝移植でしょう。私が医学部に入学する

前年の1990年に本邦3例目となった肝移植に成功し、その当時7歳であった患者さんは成人し生体肝移植例では本邦最長生存例とのこと。私の学生時代は現東大教授の幕内雅敏先生が第1外科の教授として御在職されており、講義を受けたのを記憶しています。1993年には世界で初めて成人生体肝移植に成功、また脳死肝移植実施施設としても認定され、今日まで230例を越える生体肝移植と4例の脳死肝移植を行い、なかでも2002年、政治家の河野洋平氏・太郎氏親子の生体肝移植成功では注目を集めました。

私自身の学生生活を振り返りますと、東京の私立文系大学を卒業し、数年間の社会人生活を経てから医学部入学した私は、医学部は忙しく堅苦しい世界かと想像していました。ところが信州大学は実に自由な大学でした。ターミナルケアに興味を持っていた私は、入学早々、当時神経内科の助教授をされていた現筑波大学名誉教授の庄司進一先生をお尋ねし、恐れ多くも、ホスピスの勉強がしたいと直談判。すると、快く5～6年生と始められていたゼミの仲

間に入れてくださり一緒に学ぶことをお許しくさ
 いました。そのグループが元となって『死の臨床を
 学ぶ会』を発足させ、会は徐々に大きくなり、患者
 さんや地域の方々と交えて講演会や討論会などを企
 画する広い学びの場となったのはとても楽しくため
 になる経験でした。また、ドラマにもなった『がん
 ばらない』で有名な鎌田実先生とも学生時代に松本
 でお会いしました。鎌田実先生は信州大学ご出身で
 はありませんが、松本市に本部があるチェルノブイ
 リへの医療支援のNGOの理事をされており、その
 NGOに賛同した信州大学医学部の小児科、外科(当
 時第2外科)、歯科口腔外科が現地に医師を派遣し
 たり、ベラルーシの医師を招いて研修させる活動
 が10年以上も続けられているのです。私は学生時
 代にそのNGOで秘書のような仕事をさせていただ
 き、現松本市長(当時第2外科助教授)の菅谷昭先
 生、現小児科教授の小池健一先生、諸先生とベラル
 ーシに同行させていただきました。学内ばかりでな
 く、学外で、それも国境を越えて人類の健康、平和

を願い献身的に活動される先生方のお姿から、教科
 書だけでは学ぶことのできない「医師はかくあるべ
 き」という理想を学ばせていただけましたのは学生
 時代の宝物です。

今、私は松本を離れて長野市内の総合病院で小児
 科医として勤務しております。久しぶりに松本を訪
 れると、年々街並みが新しく変わっていくのに少し
 戸惑いを覚えますが、それでも、空を仰いでぐるり
 と見渡せば日本アルプスの山々は四季折々で美し
 く、松本城もそこにあり、そして美味しいおそば、
 温かい温泉は変わりません。音楽好きの方なら、8
 月下旬の小澤征爾氏率いるサイトウ・キネン・フェ
 スティバルも見のがせないでしょう。日本の「へソ」
 松本は、東京、名古屋、大阪、どちらからでも車で
 2～3時間、飛行機ならば大阪55分、札幌90分、
 福岡100分と、小旅行には最適地です。女医会の先
 輩、後輩方々とあらば喜んでご案内いたします。ひ
 ぜ一度、信州大学へ、松本へ、どうぞ遊びにいらし
 てください。



私の好きな 食べ物やさん③

港支部 二村美美江

①なだ万茶寮—渋谷店—

東急百貨店本店8階。渋谷駅よりシャトルバス(無料)
 が便利。TEL: 03-3477-3655。ランチ11時～16時。
 ディナー16時～22時30分。

問題の値段ですが、結論、安い!! 食材がさすが吟味
 されているのに、この価格。でも我々大食家にとっては
 少々満腹にはならない。

おすすめはランチ。一日20食しか出さない。「彩り膳」
 2,980円ですが、電話で申し込んで。「牛肉香味焼御膳」
 3,780円、牛ロースの前に先付と煮物がついて、食事、
 デザート、やや満腹になります。

ディナーはまだ賞味していませんが、最低価格「味ご
 よみ」6,300円～、懐石料理「桐」10,500円。デパート
 の買い物ついでに頂くとしたら一万円以上は出たく
 ない。

②天ぶら 魚新(うおしん)

コレド日本橋店(昔の日本橋東急デパートです)、4
 階食堂街。TEL: 03-5205-7661。昼11時～14時30
 分。夜17時～22時(日・祝日は21時ラストオーダー)。
 年中無休。

以前、「わが家の近くの食べ物やさん」でご紹介した
 店で、揚げ物をうけもっている店長、宮崎神二氏がコレ
 ドに店を出しているので行ってきました。

六本木時代から天井がお急ぎの昼食で有名でしたが、
 昼のお品書に1,500円～1,800円で、あなご、かき揚
 げ、天ぶらが並んでサラリーマンたちに受けているよう

です。

天ぶらコースを私たちは頂きましたが、2,800円～
 5,000円(刺身つき)、昔同様美しく揚がる品で、最後
 の食事を天井にするか天茶漬にするかが、また楽しみで
 す。

それも、ほんの一口のミニ天井や天茶漬に心がこもっ
 ている、つつい全部いただいて満腹、満腹。夜のお品
 書は竹(7,350円)から梅、らん、刺身つき梅コースで
 9,450円だそうです。

遅い新幹線で関西から帰ってきた時、車中でのおん
 だり食べたりしないでぜひ直行してみようと、楽しみが一
 つ増えました。

③京嵐山 錦(にしき)

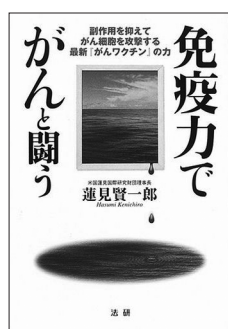
荻窪ルミネ5階食堂街。TEL: 03-5347-2525。午後
 1時～8時まで。年中無休。住所、杉並区上荻1-7-1。

荻窪に用があって、お昼過ぎにお腹がすいたのでルミ
 ネの食堂街をうろついていましたら、見つけた「錦」。
 京都の本店は私の遠い親戚にあたります。

お昼のお弁当、嵯峨野膳天ぶらつき3,200円を注文
 しました。その他平日のお手軽懐石3,800円から嵐山
 錦9,300円まで、消費税、サービス料込みのお値段です。
 京料理らしい、小さな食材まで丁寧に調理されていて、
 昔、叔母「いね」の「錦」でごちそうになった桜宿(お
 うしゅく)膳を想い出しました。宴会、法事等の予約も
 受けていて、別席、個室もあります。

お運びの女性たちは緋の着方でキビキビと、言葉づか
 いは丁寧な京なまりのある人もいて、学校帰り四條のあ
 たりをうろついて、京都の友人の家に泊めてもらって医
 学と共に雑学を学ぶことに熱心だった遠い学生時代を思
 いだした一時でした。

書評



免疫力でがんと闘う

副作用を抑えてがん細胞を攻撃する最新「がんワクチン」の力

蓮見賢一郎 著

株式会社 法研
2005年8月23日発行
1,365円(税込)

がんは毎年死因のトップを占めています。がんが発見された場合、「手術、抗がん剤、放射線」が三大療法ですが、現在はこの段階で足踏みしております。近年、がんに対する免疫学的研究が急速に進展し、今や、がん治療に免疫療法が視野に入ってきました。

本書は生体が持っている免疫力の素晴らしい可能性を解明し、精巧な免疫システムにワクチンがどのように働き、がんを叩いていくのかを分かりやすく解説しています。本書を読むことによって、免疫学の専門以外の医師にとっても、また、一般の方にとっても、がん治療に希望を見いだすことでしょう。

構成は「プロローグ、第1章「がん発生のしくみと治療の現状」、第2章「第四の柱として注目される免疫療法」、第3章「ワクチン療法のメカニズム」、第4章「ワクチン療法——“がん治癒”の可能性」、エピローグ、特別寄稿となっております。蓮見先生の文章力に引き込まれてしまいます。

必見の書であります。

(橋本葉子)



北の命を抱きしめて

—北海道女性医師のあゆみ—

北海道女性医師史編纂
刊行委員会

ドメス出版
2006年5月17日発行
2,730円(税込)

この本が刷り上がるまでに足掛け5年、なんと多くの方々の熱意や愛情がこの本にそそがれたことでしょう。この本では北の大地で名もなく黙々と医療活動を続けられた先生や現在も活動されておられる先生達の軌跡を誇張なく丁寧にたどることができたと自負しております。

本を編纂するにあたって意外な事実も判明し、北海道の女医第一号が米国から派遣された宣教師(フロレンス・エン・ハミスマー)であることも突き止めることができました。今まで広く知られていた萩野吟子医師より10年以上も北海道の女医の歴史をさかのぼることができたのはひとえに、現地取材や調査に参加した歴史研究家達の努力の賜物です。まだ、未開の地であった北海道を支え、戦中・戦後の激動の時代を乗り越え、私たちにタスキをつないでく

れた先生たちのあゆみを記録できたことは望外の幸せでした。

この本の中で息づくリアルな文章は聞き取りにご協力いただいた方々の類まれな才能を持ったコピーライターの「patient」(忍耐強い・患者という意味も持つ)というにふさわしい努力が作り出した私たちの宝です。

また、講演会や座談会の記録、日本女医会北海道支部発足の経緯や諸先生へのアンケートの結果も収録されています。余談になりますが、これだけの資料を集めることは一筋縄ではいきませんでした。「よくこれだけの資料を集められたですね。末尾の年表だけでも製作の苦労が忍ばれます」という、高名な医史研究家の最初の一言はそれまでのすべての苦労を払拭し、私達を大いに勇気づけるものでした。

北の地より時代を映す、この「北の命を抱きしめて」をつくるお手伝いが出来たことを本当にありがたいと感謝しております。一人でも多くの読者が極寒の地に息づいてきた静かな情熱に心を馳せていただければと心より願っております。

—現代社会で北国に力強く生きる女性にエールを明日へのエネルギーとなることを祈って—

(濱田啓子(北海道女性医師史編纂刊行委員))



遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤 薬価基準収載

生物由来製品、劇薬、指定医薬品
 処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

エポジン® 注

シリンジ	750	6000
アンプル	1500	9000
	3000	12000

EPOGIN® エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 製剤

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照下さい。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>



中外製薬

〔資料請求先〕
 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

ロシュ グループ

(((理事会議事録)))

日時：平成18年6月24日（土）
午後3時00分
場所：(株)日本女医会・会議室
出席者：小田、鹿田、角田、山崎（ト）、
荒木、内潟、大塚、大坪、古賀、
坂本、澁谷、高原、田中、塚田、
対馬、津田、濱田、藤川、村田、
森川、山崎（康）、吉馴、川田、
松井（以上24名）
欠席者：西嶋、山本（續）、山本（蒔）
（以上3名）

庶務報告
会計報告
各部報告

1. 役員役務分掌の件（資料1）
2. 平成18年度役員会開催日及び開催時刻の件（資料2）
3. 第51回定時総会の反省
4. 各種委員会の件（資料3）
5. 会員名簿発行の件（資料4）
6. 歓送迎会の件
7. その他
・職員夏期賞与について

理事会に先立ち、小田新会長の挨拶、理事全員の自己紹介があった。

4月理事会議事録を承認

報告事項

1. 庶務報告 古賀理事
別紙どおり報告、承認される。
2. 会計報告 森川理事
平成18年4、5月分収支別紙どおり報告、承認される。
3. 各部報告
なし

協議事項

1. 役員役務分掌の件（資料1）
角田副会長より配付資料の説明があり、下記の通り決定。

部 署	副会長	理 事
庶務部	鹿田	大塚、古賀、澁谷
学術部		内潟、西嶋、山本（續）
会計部	角田	高原、濱田、森川
広報部		大坪、対馬、山崎（康）、吉馴
事業部	山崎（ト）	坂本、田中、津田、村田
渉外部		荒木、塚田、藤川、山本（蒔）

ナショナルコーディネータ：内潟

2. 平成18年度役員会開催日及び開催時刻の件（資料2）
鹿田副会長より配付資料の説明があり、（案）通り承認される

平成19年度の総会日は今年度の総会で、総会の日曜日開催を希望する意見もあったので、神奈川支部の予定を考慮してから決定する。

平成18年 6月	24日	12月	16日
7月	22日	平成19年 1月	27日
8月	休会	2月	24日
9月	2日	3月	24日
10月	28日	4月	21日
11月	25日	5月	19日

3. 第51回定時総会の反省
・角田副会長より
会長、副会長の互選は別室に移動せずに、公開で選挙の方が時間と費用の節約のために良いのではないかと、この意見が出された。
・坂本理事より
総会の休憩時間が長すぎるのではないかと、また規則に基づいての進行を希望する、との意見が出された。
・それに対する庶務部よりの回答
休憩時間に関して：準備の関係上とつてあるが、短縮するように努力する。
選挙方法に関して：詳細な規則がないので選挙管理委員の選出方法も含め考える。
以上について、「委員会」を立ち上げ定款の改定も視野に入れ、平成19年度の総会までに素案づくりをする。



選択的β₁アンタゴニスト 薬価基準収載
メインテート錠^{2.5}/₅
 Maintate® (フマル酸ピソプロロール製剤)

指定医薬品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

〈資料請求先〉



田辺製薬株式会社

大阪市中央区道修町3丁目2番10号
http://www.tanabe.co.jp/

2005年4月作成

4. 各種委員会の件 (資料3)

配付資料に基づき説明があり、独立行政法人福祉医療機構より助成を受けている「子育て支援委員会」、「長寿社会福祉委員会」はそれぞれの委員会をたちあげて活動開始。「10代の性と健康指導者養成講座」は対馬理事、荒木理事を中心に継続する事に決定。同じく要望の多い「病児保育」に関しては斎藤前理事に継続を打診中である。

5. 会員名簿発行の件 (資料4)

名簿発行に関し想定できるいくつかの案を澁谷理事が作成し、次回理事会で検討。

6. 歓送迎会の件

7月理事会終了後に新旧役員歓送迎会の開催を決定。会場は東京駅付近で探す。

7. その他

- ・小田会長より、日本医師会「男女共同参画委員会 委員」に大坪理事を推挙した旨の報告
- ・内潟理事より2007年ガーナで開催される国際女医会議の説明
- ・事業部の事業内容について坂本理事より質問があった。前期より継続している理事を中心に各部で話し合いをする。
- ・今まで毎月作成していた「会計・達成率」は半期に一度とする。
- ・助成金事業の会計は毎月の理事会で報告する。
- ・職員夏期賞与は2か月分支給する。

以上

日時：平成18年7月22日 (土)
午後3時00分

場所：京王プラザホテル

出席者：小田、鹿田、角田、山崎 (ト)、荒木、大坪、古賀、坂本、澁谷、田中、塚田、濱田、藤川、村田、山崎 (康)、吉駒、松井
(以上17名)

欠席者：内潟、大塚、高原、対馬、津田、西嶋、森川、山本 (續)、山本 (詩)、川田 (以上10名)

庶務報告

会計報告

各部報告

1. 会員名簿の件 (資料1)
2. 総会開催 (役員改選時も含む) の件
3. 定款改定委員会発足の件
4. ブロック別懇談会の件
5. その他
 - ・各種委員会からの報告
 - ・後援依頼 (資料2)

小田会長より医師会関係の報告

- ・診療報酬の値下げに伴うプレ調査の結果

果について、また調査依頼のあった時は協力の依頼

- ・7月29日に大阪で開催される「日本医師会第9回男女共同参画フォーラム」について

- ・「療養病床の削減」、「障害者自立支援法」
- 「9月9日、救急の日」について

報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事
別紙どおり報告、承認される。

2. 会計報告 濱田理事
平成18年6月分収支別紙どおり報告、承認される。

古賀理事より、安定的な会費収入のためにも会費の自動引き落としの強化をしていくと良いのでは、との意見が出された。

3. 各部報告

- 【庶務部】 澁谷理事
・現在ある「就業規則」を回覧する。

- 【広報部】 大坪理事
・会誌187号の原稿を回収中。8月9日に編集会議を行う予定。

- 【渉外部】 山崎 (ト) 理事
・配布の資料3に基づき説明

7月13日「2006年度国連NGO国内婦人委員会・定例総会」に山本 (詩) 理事が出席

- ・松井監事から6月28日内閣府男女参画局主催「男女共同参画担当大臣との懇談会」に出席の報告

協議事項

1. 会員名簿発行の件
澁谷理事より配布資料に基づき説明。発行のメリット、デメリット等検討する。
・発行するか否か討議し、今年は多数決で前回と同様の形式で発行することに決定。既に各会員へ名簿記載項目の希望についてたずねている。
・各理事で得意とする会社へ広告の協力依頼をする。
・東京都支部連合会会長、大阪府女医会会長を名簿のどこに記載するか、今後検討する。
・安価に抑えるよう努力する。

2. 総会開催 (役員改選時も含む) の件

- ・来年の神奈川での第52回総会は5月19日 (第3土曜日) に決定。

・2年毎の選挙総会を東京都支部連合会では引き受けられないとの意向なので、地方ですか東京ですかを検討する。

現在、地方で開催の場合は本部より150万円交付し、その他の支出は支部で負担し、東京で開催の場合は会場費等本部で負担し80万円交付している。

以上のことも考慮し、第53回総会は開催日を日曜日にも視野に入れ、本部主導で東京開催に決定する。庶務部

で予算を含めた素案を作る。

- ・古賀理事から宮城支部でもいつとは断言できないが、前向きに検討したいとの発言があった。

3. 定款改定委員会発足の件

庶務部3名、鹿田副会長、塚田理事そして石原前副会長に依頼する。各理事も現行定款を読み、意見を提出すること。

4. ブロック別懇談会の件

開催場所・開催方法などについて様々な意見が出され、活発に議論した。

5. その他

- ・各種委員会からの報告
大坪理事より「長寿社会福祉委員会・たんの吸引に安全に実施するための教育講習事業」について、鹿田副会長より「子育て支援委員会・21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言」の進捗状況についての報告
- ・大坪理事より「日本医師会・女性のドクターバンク」の委員就任の報告
- ・坂本理事より下記の質問が出され、活発な討議となった。

福岡県医師会にも男女共同参画委員会ができ支部会員が3名入っている。

日本医師会と日本女医会はどのように関わっていくのか、日本女医会としての基本的なスタンスを教えてほしい。

○大坪理事より

日本女医会は歴史も実績もあり、男女共同参画においても先駆者であるから、独自でも力を発揮できる。萎縮せず意見を述べるべきである。

○小田会長より

医師会は男性社会である。現在全国の都道府県医師会で女性理事は24人、日本医師会代議員中女性は3人、日本医師会各種委員会での女性委員は44人 (641人中) のみである。女性医師が活躍する場が広がるように地方医師会、日本医師会と連携を密にしていきたい。

○藤川理事より

日本女医会は日本医師会と異質のものだから、自信を持って啓蒙していく必要があるのではないかな。

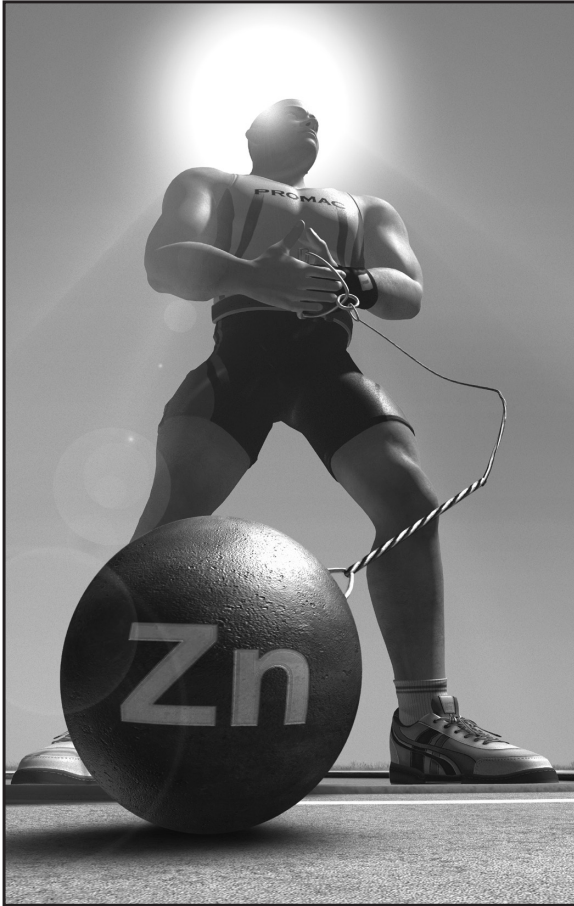
○鹿田副会長より

今までの日本医師会との関わり方の経緯を説明。日本女医会の会員数を増やし、組織を大きくすることにより存在をアピールできるのではないかな。

・後援依頼 (資料2)

性と健康を考える女性専門家の会 会長堀口先生より「2007年8月18日開催の第3回アジア性教育学術交流会議」に後援依頼あり、名前だけの後援で承認。

以上



亜鉛含有胃潰瘍治療剤

Promac® D tablets 75・granules 15%

プロマック® D錠75

指定医薬品

ポラプレジンク口腔内崩壊錠

薬価基準収載

プロマック® 顆粒15%

指定医薬品

ポラプレジンク製剤

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。



〔製造販売元〕〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町10-11

ゼリア新薬工業株式会社

〔資料請求先〕医薬マーケティング部 ☎03(3661)0277



流れを、ストロート。

おとして、抑える。

日本発、コニール。

高血圧症・狭心症治療剤（持続性Ca拮抗薬）

前薬／指定医薬品／処方せん医薬品*

〈薬価基準収載〉

日本薬局方 塩酸ベニジピン錠

コニール®錠 2・4・8

Coniel® Tablets

2mg・4mg・8mg錠

*注意-医師等の処方せんにより使用すること

●「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意事項」は製品添付文書をご参照ください。



製造販売元

協和発酵工業株式会社

東京都千代田区大手町1-6-1

<http://iyaku.kyowa.co.jp/>

〔資料請求先〕

06.03.

会員動静 (2006年9月26日現在)

入 会	木村 文子 (昭55年卒) 埼 玉	中山 攝子 (昭61年度) 港
	伊東 香 (平3年卒) 神 奈 川	松永佳世子 (昭51年度) 愛 知
	八木さえ子 (昭53年卒) 北	亀井 貴美 (平3年度) 三 重
	畑 三恵子 (昭53年度) 葛 飾	退 会 2名
	泉 美貴 (昭63年度) 新 宿	南里 栄子 (昭14年卒) 栃 木
	池田美智子 (昭43年度) 中 野	沖津 くら (昭6年卒) 神 奈 川
	車谷 峰子 (昭52年度) 練 馬	三澤 三代 (昭7年卒) 山 口
	中山 攝子 (昭61年度) 港	

日本女医会吉岡弥生賞 推せんについて

平成18年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。

締め切り期日は、平成18年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
イ) 医学に貢献した現会員。
ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

日本女医会荻野吟子賞 推せんについて

平成18年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成18年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動 に対する助成のご案内

平成18年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成18年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社) 日本女医会 事業部

第27回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額

1件30～50万円(3件)

3. 申込手続

(1) 応募資格

入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグ

ループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

(3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 締切期日

平成18年12月25日必着

(5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、

平成19年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6) 助成金の贈呈

平成19年5月開催の日本女医会総会の席上。

(7) 受賞者の本会に対する義務

平成20年3月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙3枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送付先

財団法人/日本女医会

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-8-7

☎03-3498-0571

編集後記

9月に安倍新政権が発足し、日本の政治・社会も、国内外にそのあり方を問われようとしています。最近では格差社会と言われ、身分や収入の格差が問題視されていますが、ある社会学者に言わせると、問題は「希望の格差」なのだそうです。つまり、将来の生活や自分の人生に希望がもてる人と、そうではない人の意識の差が大きくなっているそうです。わたしたち女性医師も、ひとりひとりが、社会に生き、社会に貢献し、次世代を育成する重要な存在として、希望をもって仕事や活動に取り組んでいきたいものですし、また、医療のプロフェッショナルとしても、働く女性としても、連携を深め、大いに、社会に、医師会・学会に、世界にと発言していきたいものです。女医会活動を通じ、「希望をもって」責任ある意見を発信してまいりましょう。(対馬ルリ子)

日本女医会誌

復刊第188号 2006年10月25日発行

編集人 大坪公子

発行人 小田泰子

制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail: office@jmwa.or.jp